全農
ZEN-NOH
食と農を未来へつなぐ。



肥料のひみつ

肥料のファクトブック

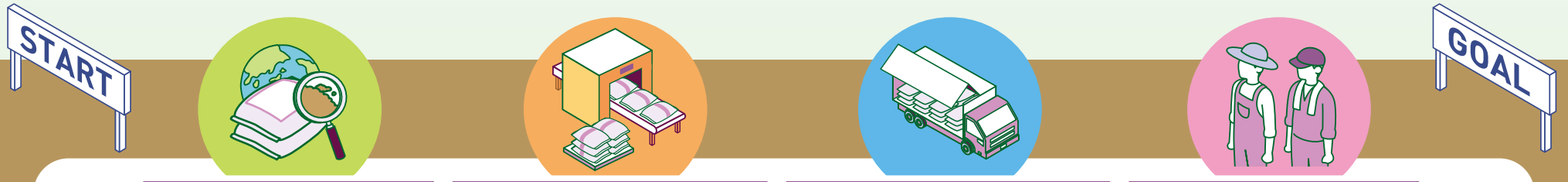
全国農業協同組合連合会
2026年11月

農産物を安定的に育てるために
肥料が農家に届くまで

●全農は、海外からの原料輸入や、子会社である全農グリーンリソース株式会社と連携した国内肥料メーカーへの原料供給、肥料製品の購買・供給を行っています。また、肥料の生産現場では、作物の種類や地域の土壌に合わせて肥料を製造・配合し、農業生産に適した製品として供給しています。

●国内で流通している肥料は、主に海外から輸入した原料を国内の工場で製造・配合したものです。JAなどを通じて生産者へ供給されています。

●生産者はこれらの肥料を活用し、作物の生育に必要な養分を補給することで、安定した農作物の生産につなげています。



原料調達 → 生産 → 流通 → 販売

肥料原料輸出国 → 全農・全農グリーンリソース → BB肥料工場 / 肥料メーカー → 全農 → 経済連・全農（県本部） → JA → 生産者



肥料原料を海外から調達して
BB肥料工場・メーカーに供給



BB肥料工場・メーカーで製品にした後、経済連・JAを通じて生産者のもとへ

※BB肥料：BBはBulk Blendingの略称で、各種粒状の肥料原料を物理的に混ぜ合わせて製造する肥料のことです。BB肥料は、肥料原料に化学的操作（化学反応）を加えて製造する化成肥料に比べ、小ロット・多銘柄の生産が可能、成分設計の自由度が高いなどの特徴があります。

CONTENTS

基礎知識

調達・輸入

製造・流通

土づくり・環境への配慮

お役立ち情報

植物の生育に必要な必須元素　足りない養分を肥料で補う　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
「肥料の3要素」のはたらき　作物の生育や品質にもたらす影響とは？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
さまざまな肥料の種類　それぞれの特徴を生かして作物を育てる　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
肥料の品質を守る「肥料法」と全農独自の「くみあい肥料の考え方」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
全農営農・技術センター肥料研究室　化学性・物理性の両面から肥料の品質を評価する　・・・・・・・・7
食料が足りない？ 今後、ますます必要とされる肥料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
世界中から肥料を輸入　日本の生産者に安定して肥料を届ける　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
肥料原料の品質保持のため、原料の特性に合わせて適切に保管　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
肥料の安定確保を目指し、年間需要の3か月分を備蓄　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
作物の種類や土壌の状態に合わせて製造　オーダーメードBB肥料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
作業を効率化し、トラックドライバー不足に対応する「統一規格パレット」の利用　・・・・・・・・・・・・13
減る農業者　肥料の価格高騰が、農家経営を圧迫する一因に　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
製造コストの6割を占める原材料費　輸送費の上昇も価格高騰の一因に　・・・・・・・・・・・・・・・・15
養分を吸収する量と時期は作物によって違う　それぞれに最適な量を適切な時期に施肥することが重要　・・16
農家の施肥作業は、重労働　近年は、ドローンを飛ばす省力施肥技術も　・・・・・・・・・・・・・・・・17
なぜ、「土壌診断」をするの？ 豊かな土づくりが、実りの多い作物を育てる　・・・・・・・・・・・・・・18
肥料は、下水からも生まれる？ 国内資源由来の肥料を使う取り組み　・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
肥料に使われるプラスチックの流出防止を目指して　環境負荷を低減する持続可能な農業とは？　・・・・20
無肥料栽培はできるの？ 安定生産や収穫量向上のために補いたい3要素　・・・・・・・・・・・・・・・21
肥料使いと土づくりのコツとは？ 家庭菜園に役立てたいApron　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22



基礎知識

植物の生育に必要な必須元素
足りない養分を肥料で補う

●植物の生育に必要な条件は光、水、空気、温度、養分。その中でも特に養分は、農作物の栽培において自然に供給される量では不十分です。
●そのため、農作物を健全かつ安定的に生産するために必要となるのが養分を補う肥料です。
●必須元素（植物が必要とする成分）は17元素あり、その中で植物が多く必要とする多量要素が9元素、必要量が比較的少ない微量要素が8元素あります。水稲では、この他ケイ素も生育に不可欠な要素となります。

必須元素

多量要素
植物の生育に多く必要とされる元素

微量要素
植物の生育に少量必要とされる元素

＋

ケイ素
必須元素ではないが、水稲では不可欠

元素としての名前（化学名）		肥料としての一般名称	
N 窒素	植物の葉や茎の成長を助ける成分	窒素	肥料では「窒素」と呼ばれます。葉や茎を大きく育てる！
P リン	花や実つきを良くし、根の成長を助ける成分	りん酸	肥料では「りん酸」と呼ばれます。花や実をたくさんつくる！
K カリウム	根を丈夫にし、病気や暑さ・寒さに強くする成分	加里	肥料では「加里」と呼ばれます。丈夫な根や実をつくる！

多量要素

元素名	元素記号
水素	H
酸素	O
炭素	C
窒素	N
リン	P
カリウム	K
カルシウム	Ca
マグネシウム	Mg
硫黄	S

微量要素

元素名	元素記号
ホウ素	B
マンガン	Mn
鉄	Fe
銅	Cu
亜鉛	Zn
モリブデン	Mo
塩素	Cl
ニッケル	Ni

その他

ケイ素	Si

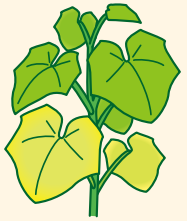
基礎知識

「肥料の3要素」のはたらき 作物の生育や品質にもたらす影響とは？

●多量要素の中でも特に窒素・リン・カリウムは、「肥料の３要素」と呼ばれます。植物の必須元素（栄養分）は土壌からも供給されますが、特にこれら3要素は自然に供給される量が少なく、肥料での補給が必要となります。

●「肥料の３要素」が不足すると、茎や葉を中心に特徴的な症状が表れ、作物の生育・品質に影響が出やすくなります。

肥料の3要素の役割と欠乏・過剰時の症状

	元素	主な効能	欠乏時	過剰時
肥料の3要素	窒素（窒素）	植物体を構成する成分（タンパク質など）の主要構成元素 **生育を促進し、養分吸収や光合成などを盛んにする**	葉色が淡緑色～黄色になる 生育が衰える 	葉が暗緑色となる 茎が必要以上に長く、細く伸びる 必要以上に茂り過ぎ、過剰に成長
	リン（りん酸）	植物の生理作用（エネルギー代謝や遺伝情報（DNAなどの構成元素））に関与する **開花・結実を促進する**	葉や茎が赤紫色になる 生育が衰える 	なかなか生じないが、まれに、葉に黄白化がみられることがある
	カリウム（加里）	植物の生理作用（植物体内の水分調節など）に関与する **根や茎の発育を助ける**	葉の先端や縁が黄褐色～赤褐色になる 	過剰症は特にないが、他の肥料成分の吸収を妨げる

基礎知識

さまざまな肥料の種類
それぞれの特徴を生かして作物を育てる

●肥料には、特定の成分を補う単肥、複数の原料を化学的な加工によって一つの粒にした化成肥料、複数の原料を混ぜ合わせて作る配合肥料があります。
●配合肥料には、原料を粉状のまま混合したものや、肥料を粒状に加工した粒状肥料を混合したBB肥料（バルクブレンド肥料）があります。
●他にも、動植物由来の原料から作られる有機質肥料や、堆肥・腐葉土などもあります。それぞれの特徴を生かしながら、作物の生育に必要な養分の供給や土づくりに活用されています。

単肥



尿素
（窒素質肥料）



塩化加里
（加里質肥料）

化成肥料



配合肥料



粉状配合
（粉状の原料を混合）



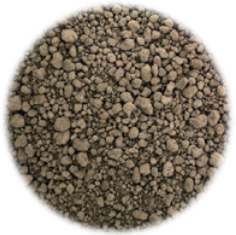
粒状配合（BB肥料）
（粒状の原料を混合）

有機質肥料



なたね油粕

堆肥



鶏糞堆肥

基礎知識

肥料の品質を守る「肥料法」と全農独自の「くみあい肥料の考え方」

●肥料の生産・輸入・販売を行う場合、すべての肥料に「肥料の品質の確保等に関する法律（肥料法）」が適用されます。肥料法は、肥料の品質を確保し公正な取引と安全な使い方を確保するための国のルールです。

●一方、全農では、この法律を守ることに加え、肥料の品質管理などについて独自に定めた基準である「くみあい肥料の考え方」を設けています。法律上の基準を満たすだけでなく、安定した品質と安心して使える肥料をお届けするための取組みを行っています。

肥料の固結の様子



肥料散布時の粉立ちの様子



肥料法では主に成分（化学性）について規定されているが、固結・粉化など成分以外の問題（物理性）も生産現場で起こっている

肥料法

（肥料の品質の確保等に関する法律）

すべての肥料に適用される国のルール

●肥料の登録・届出制度や成分表示、品質管理基準

＋ さらに

JA全農

くみあい肥料の考え方

（全農の独自基準）

法律で及ばない範囲の品質の好適な目安をまとめている

基礎知識

全農営農・技術センター肥料研究室
化学性・物理性の両面から肥料の品質を評価する

より詳しい情報は
肥料研究室HPへ

●全農では、自らが取り扱う肥料の品質評価を肥料研究室（神奈川県平塚市）で行っています。
●肥料研究室には肥料の化学性・物理性を測定する設備機器があり、そこで得られた結果をもとに、肥料の品質維持・改善や現場で問題が起こった場合の原因究明・解決策提案を行っています。

全農の肥料研究室での品質評価

化学性



ICP発光分光分析装置
肥料中の成分量の測定



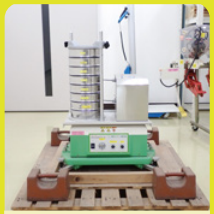
X線回折装置
肥料中に含まれる物質を推定

など

物理性



固結試験器
肥料が固まりにくいかを調査



粒度分布測定装置
肥料の粒径や粉化してしまっている量を調査

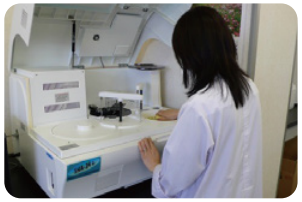
など

●肥料・原料の品質評価
●品質課題の原因解析・改善
●安定供給を支える品質管理技術の開発などを実施

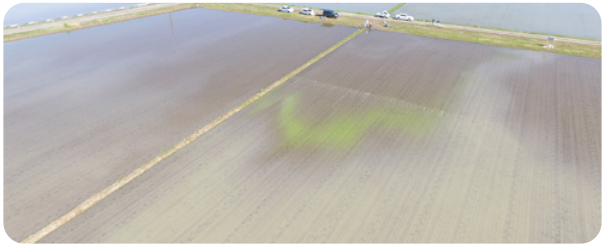
品質評価の様子



肥料分析作業の様子



土壌分析作業の様子



緑色に着色した流し込み液肥が水田内に拡散する様子をドローンで撮影



栽培試験の様子（トマト）

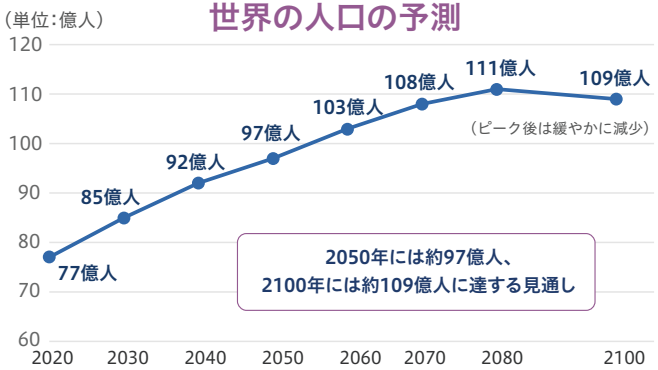
基礎知識

食料が足りない？
今後、ますます必要とされる肥料

●世界では、人口増加により食料需要が高まっており、食料生産に欠かせない肥料の需要も高まることが見込まれます。
●国際情勢の不安定化や輸出規制などにより肥料が不足すると、必要な量の食料が生産できず、世界的な食料不足や食料価格高騰を招く可能性があります。

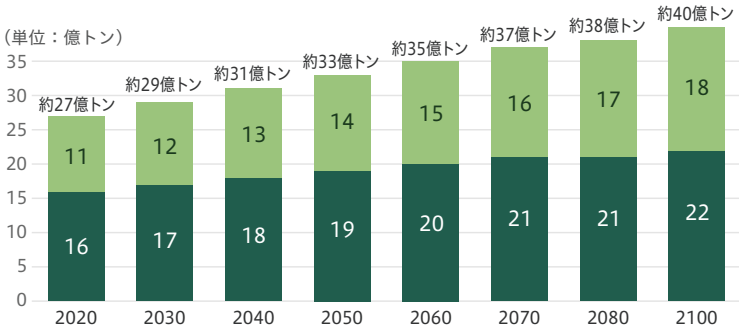
世界の人口増加と食糧需要の見通し、肥料不足がもたらすリスク

世界の人口の予測



出典：国連「WorldPopulationProspects2022」より

世界の食糧需要の見通し（穀物）

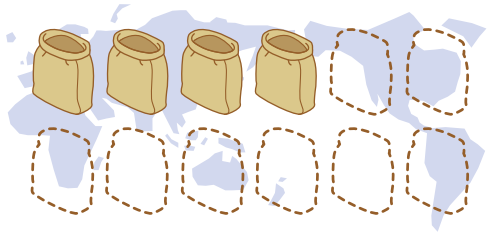


人口増加に伴い、穀物需要は2020年比で2100年には約1.5倍（約40億トン）に増加する見通し

出典：FAO「OECD-FAOAgriculturalOutlook2023-2032」より

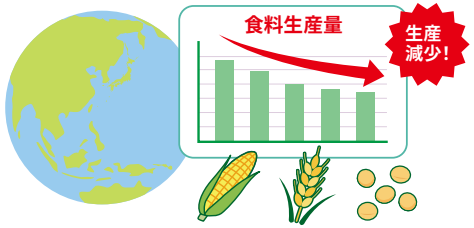
もし、肥料が不足すると…

肥料の不足



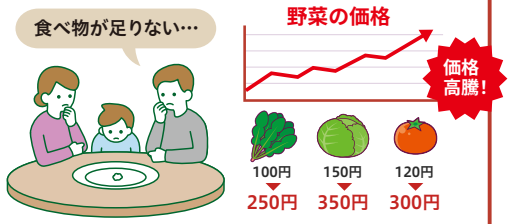
原料の供給制約や価格高騰、輸入制限などにより、必要な肥料が十分に確保できない状態に。

農作物の生産減少



肥料不足により単収（面積あたりの収穫量）が低下し、世界の食料生産が減少。

食料不足と価格高騰



供給が需要に追いつかず、世界的に食料不足や価格の高騰を招く。

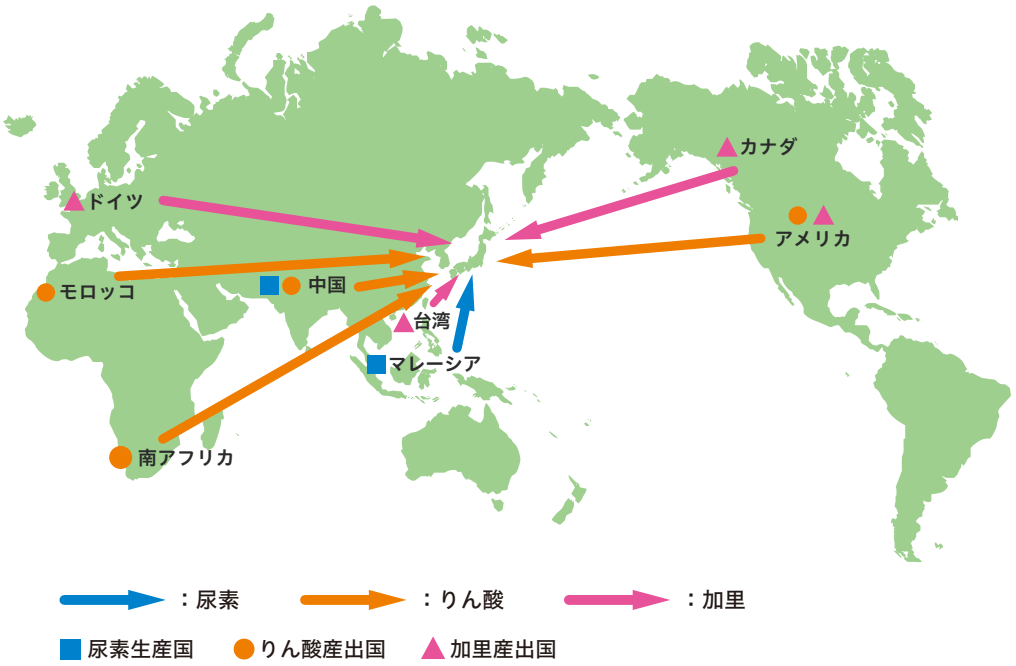


調達・輸入

世界中から肥料を輸入
日本の生産者に安定して肥料を届ける

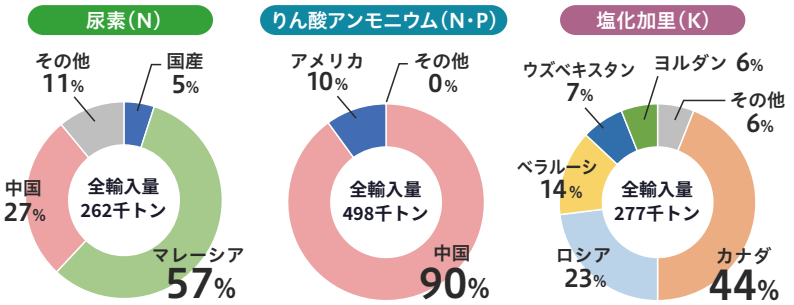
●全農では、肥料の３要素である窒素・りん酸・加里の含まれる肥料原料を中心に、多種多様な肥料を世界中の工場から輸入しています。
●輸入している肥料原料は天然鉱物資源由来のものも多く、世界的にも食料安全保障に直結する重要な物資とされています。そのため、各国が確保に向けて尽力しています。
●日本の肥料需要は世界全体の0.4％程度と小さいものの、全農は世界中の会社と契約を結び、肥料原料を安定的に調達しています。こうして調達した原料から肥料製品をつくり、日本の生産者に届けています。

全農の輸入肥料原料調達先

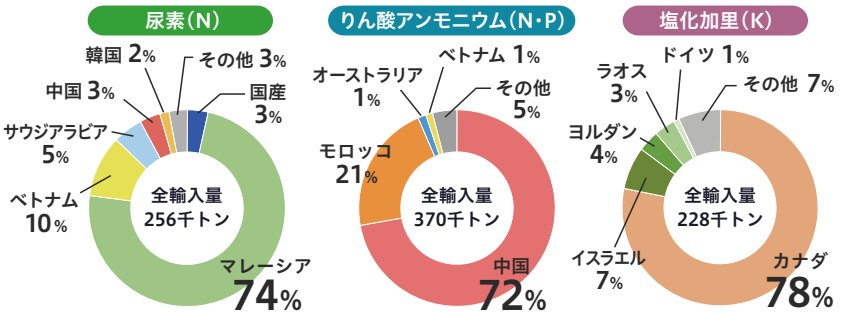


日本の肥料原料輸入国

R2肥料年度（令和２年７月～令和３年６月）



R6肥料年度（令和６年７月～令和７年６月）



出典：農林水産省「肥料をめぐる情勢」



調達・輸入

肥料原料の品質保持のため、原料の特性に合わせて適切に保管

より詳しい情報は
「Minorinote Vol.6」へ

●海外から輸入した肥料原料は、全農グリーンリソース株式会社などの拠点で保管・管理されます。
●肥料原料は倉庫内で適切に保管され、品質の安定化が図られています。
●出荷前に、篩(ふるい)分け作業によって、散布に適した大きさに調整した後に、包装作業を行い肥料工場やJAグループへ出荷されます。

①保管・管理

肥料原料の特性に合わせて保管をしています。吸湿性の高い原料は、品質劣化を防ぐためにシートを掛けることで品質保持を図っています。



バラ保管

②粒度調整・異物除去

用途に合わせ、肥料原料を篩(ふるい)機で粒度を調整し、異物除去も行います。



篩(ふるい)かけ

③梱包・出荷

フレコンバッグによる出荷の他、ポリ袋での出荷や、包装をしない「バラ出荷」もあります。



フレコン



ポリ袋



調達・輸入

肥料の安定確保を目指し、年間需要の3か月分を備蓄

●国は、重要物資である肥料を安定的に備蓄するため、2022年から「肥料原料備蓄対策事業」を開始しました。りん酸アンモニウム（りん安）と塩化加里は、年間需要量の3か月分相当の備蓄を行う体制を目指しています。

●全農は、この事業に参画し、肥料備蓄専用倉庫の建設を進めるなど、国と連携しながら肥料原料の安定確保に取り組んでいます。

	国の備蓄数量目標 （年間需要量の3カ月分に相当する）
尿素	対象外 ※尿素（窒素質肥料）は事業の対象外とはなりますが、全農は独自に在庫を持ち、安定供給に備えています。
りん酸アンモニウム（りん安）	12万6千トン
塩化カリウム（塩加）	7万8千トン

全農グリーンリソース㈱鹿島支店（茨城県）の
備蓄専用倉庫（2026年2月稼働）





製造・流通

作物の種類や土壌の状態に合わせて製造 オーダーメードBB肥料

より詳しい情報は
「Minorinote Vol.16」へ

●国内肥料工場では、作物の種類や土壌の養分状態に合わせて、肥料を製造しています。
●JAグループは、BB肥料の活用を進めており、全国18ヵ所でBB肥料工場を運営しています。肥料を最適な割合で配合し、地域や作物、土壌の養分状態に応じたオーダーメードBB肥料を供給しています。

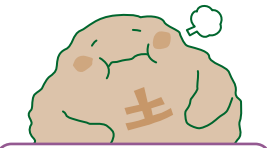
BB肥料のメリット

①化成肥料に比べて製造コストを抑えられる
②小ロットでも生産が可能
③成分設計の自由度が高い

土壌診断による
土壌中の養分把握



省力化したい！
微量要素ほしい！
有機肥料も入れて！
土づくりも一緒に！



養分過剰

過剰な養分を除くことで低コスト化

低成分BB肥料



養分適正または不足

成分バランスを考慮したBB肥料



産地・生産者のこだわり

産地・生産者のニーズを満たしたBB肥料

オーダーメードBB肥料の作成手順

訪問してリサーチ ▶ 土壌サンプル調査 ▶ 肥料設計相談 ▶ 製造 ▶ 配送 ▶ 生育状況フォロー

全国15道県に
18生産工場



製造・流通

作業を効率化し、トラックドライバー不足に対応する「統一規格パレット」の利用

●肥料は、ポリ袋やフレキシブルコンテナバッグ（フレコン）などの荷姿で輸送されています。
●近年は輸送・保管時の作業効率向上やトラックドライバー不足への対応などを目的として、パレットを活用した輸送が求められています。パレットにはさまざまなサイズがありますが、全農は統一した規格のパレットを利用することにより、物流の効率化や荷役作業の合理化に取り組んでいます。

荷姿



ポリ袋


フレコン

パレット活用


統一規格パレット


パレット積み

トラックへの積み込み





減る農業者
肥料の価格高騰が、農家経営を圧迫する一因に

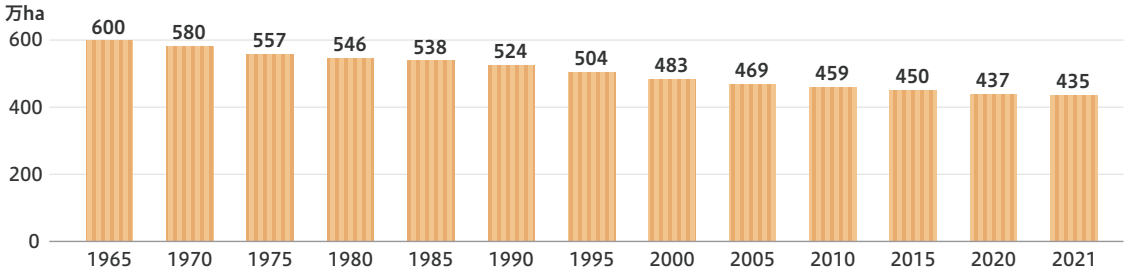
より詳しい情報は
「Minorinote Vol.4」へ

●国内の農業従事者は、高齢化と担い手不足により減少傾向が続いています。それに伴い、農地面積も長期間にわたり減少に歯止めがかからない状況です。

●日本では肥料原料の多くを輸入に頼っているため、国際情勢や為替の影響を受け、農業に欠かせない肥料の価格が高騰し、農家の負担が増加しています。

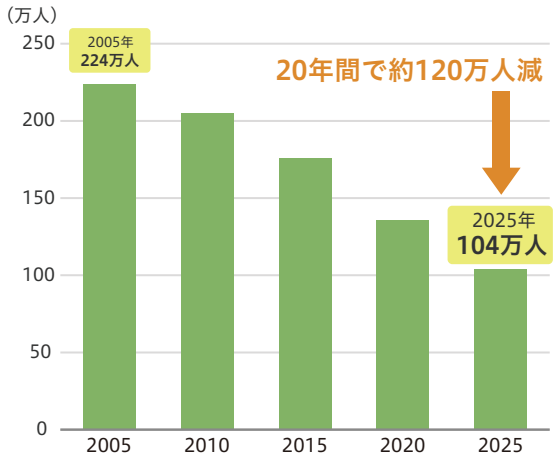
●肥料価格の高騰は農業経営を圧迫し、私たちの食を支える農業基盤にも影響を及ぼします。

農地面積



出典：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

基幹的農業従事者数の推移

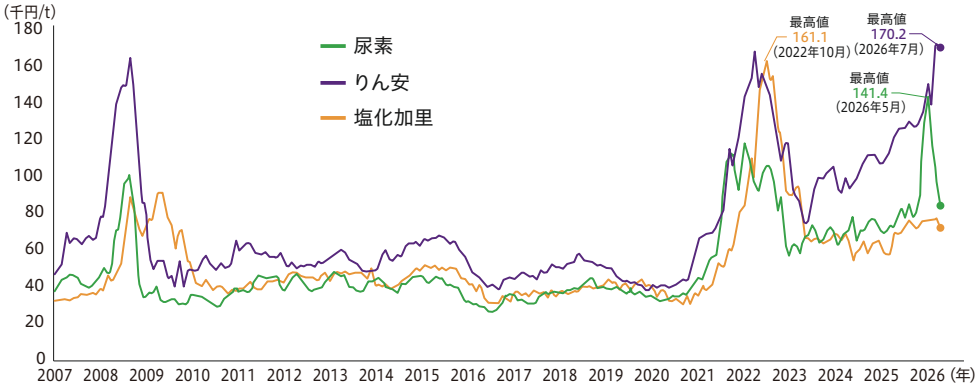


出典：農林水産省「農業経営をめぐる情勢について」を元に作成

※基幹的農業従事者とは、個人経営体（家族経営の農家）の15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している人

肥料原料の輸入通関価格の動向

肥料原料の輸入通関価格は、2021年以降に上昇傾向となり、2023年に下落に転じたものの、直近の中東情勢などの影響も受けて再び高い水準で推移している。



出典：農林水産省「肥料原料の輸入通関価格の動向」を元に作成

2026年8月現在



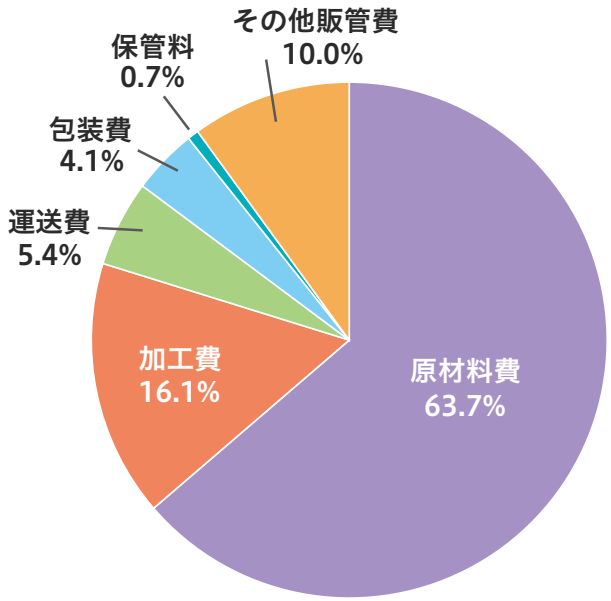
製造コストの6割を占める原材料費
輸送費の上昇も価格高騰の一因に

より詳しい情報は
「Minorinote Vol.4」へ

●化学肥料（高度化成肥料）は、製造コストの約６割を原材料費が占めています。
●肥料原料の多くは海外からの輸入品であり、船による輸送費上昇の影響を受けます。さらに国内におけるトラック物流費や加工費の上昇も肥料価格に影響し、価格高騰の要因となっています。

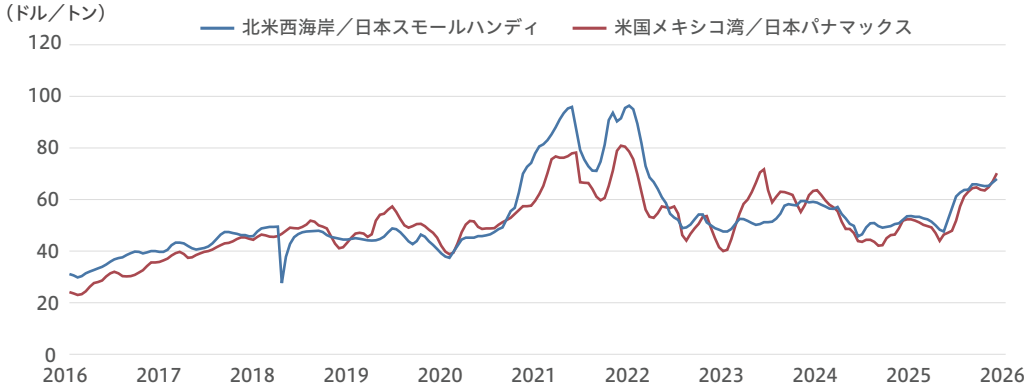
※化学肥料（高度化成肥料）……窒素、りん酸、加里を含む肥料

高度化成肥料のコスト構造



出典：経済産業省「平成24年度中小企業支援調査化学肥料製造における実態調査」

海上運賃の推移



出典：全農調べ

2020年にはコロナによる世界経済の停滞で一時的に下落したが、2021年は世界経済の回復とともに物流混乱や資源需要の回復を背景に大幅に上昇した。その後は正常化したものの、国際市場の影響を受けやすく、近年は高水準で推移している。

養分を吸収する量と時期は作物によって違う
それぞれに最適な量を適切な時期に施肥することが重要

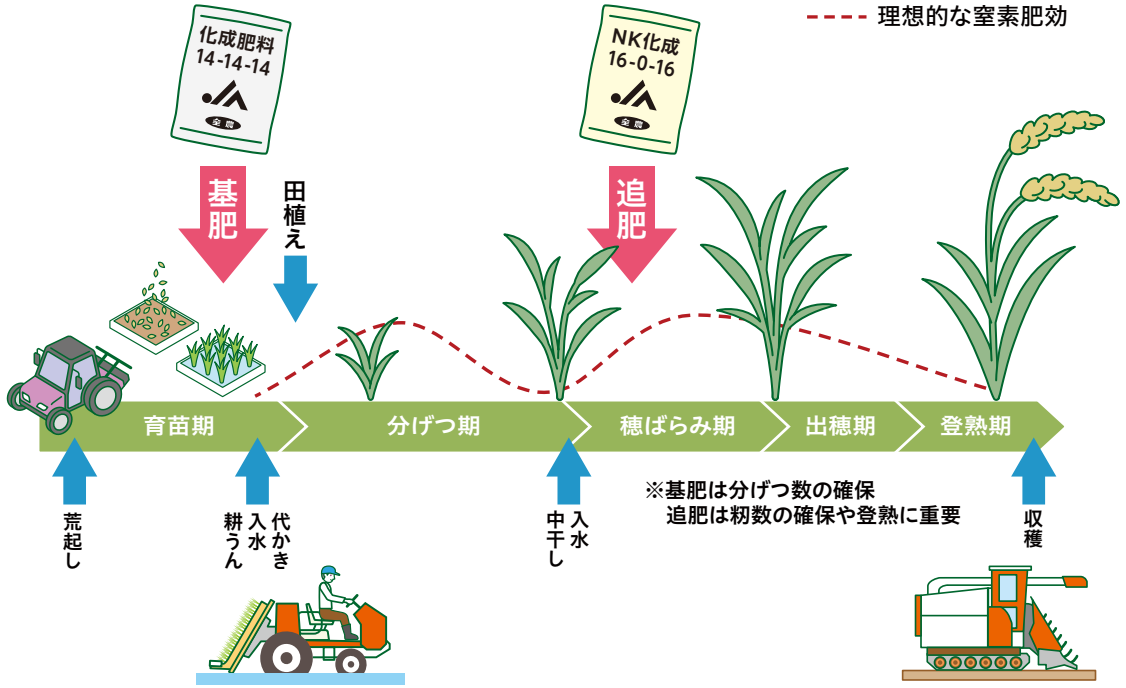
●作物が必要とする養分の量は、作物の種類、品種、作型、目標収量などによって異なります。

●養分を多く吸収する時期も作物によって異なるため、基肥、追肥といった、肥料を散布する時期や分量のバランスも変える必要があります。

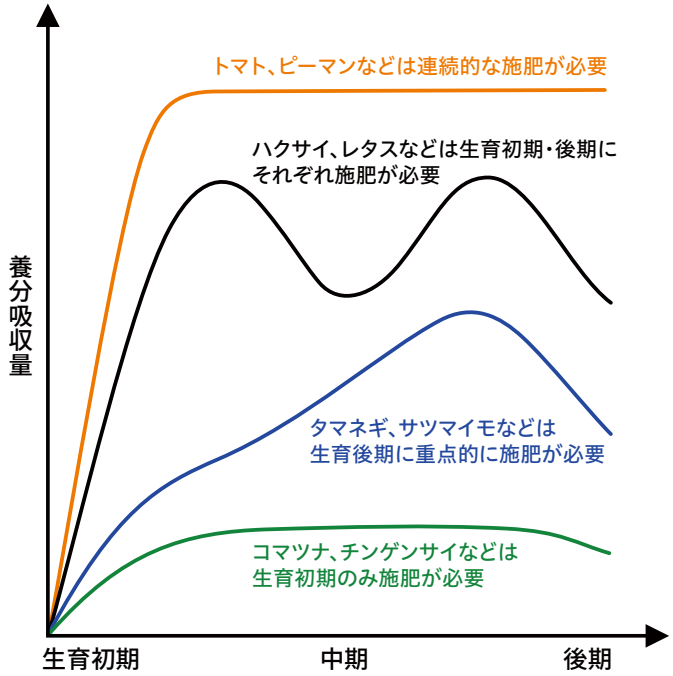
※施肥(せひ)……植物の育成を促すため、肥料を与えること
※基肥(きひ・もとごえ)……作物を植える前に土壌に散布する肥料のこと
※追肥(ついひ)……作物の生育途中で追加する肥料のこと

一般的な水稲の施肥体系と水田での主な作業内容

▶ 基肥＋追肥の分施体系が一般的
▶ 基肥施用時期は、耕うん・代かきなど作業が多く労力がかかる。



各種作物の養分(窒素)吸収時期のモデル図

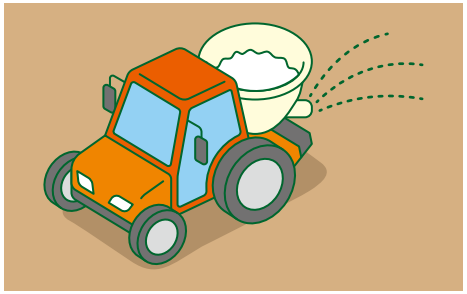


出典:藤原俊六郎「だれでもできる肥料の上手な効かせ方」(農文協)を基に作図

農家の施肥作業は、重労働
近年は、ドローンを飛ばす省力施肥技術も

●水稲の場合、基肥は主に「ブロードキャスタ」や「側条施肥機」による施肥、追肥は「動力散布機」による施肥が一般的です。
●施肥作業は重労働であるため、近年は省力施肥技術が開発されています。水稲の省力施肥技術には、流し込み施肥、ペースト施肥、ドローン施肥などがあります。

「基肥」に使用



ブロードキャスタ
トラクターの後部に取り付けて、肥料を広範囲に散布する



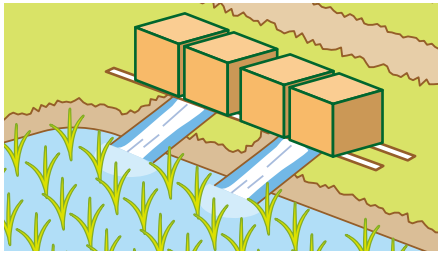
側条施肥機
苗の植付けと同時に、根の周辺に肥料を施す

「追肥」に使用

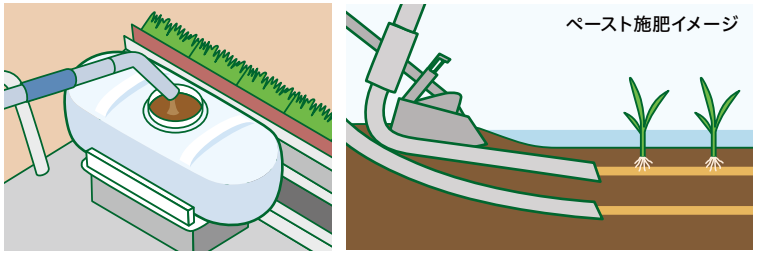


動力散布機
肥料を入れたタンクを背負い、広範囲に肥料を散布する

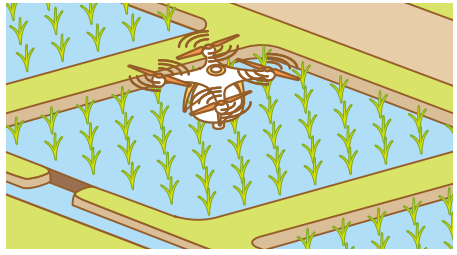
省力施肥技術



流し込み施肥
水口で肥料を溶解または液体肥料を滴下して灌漑水とともに流し込む



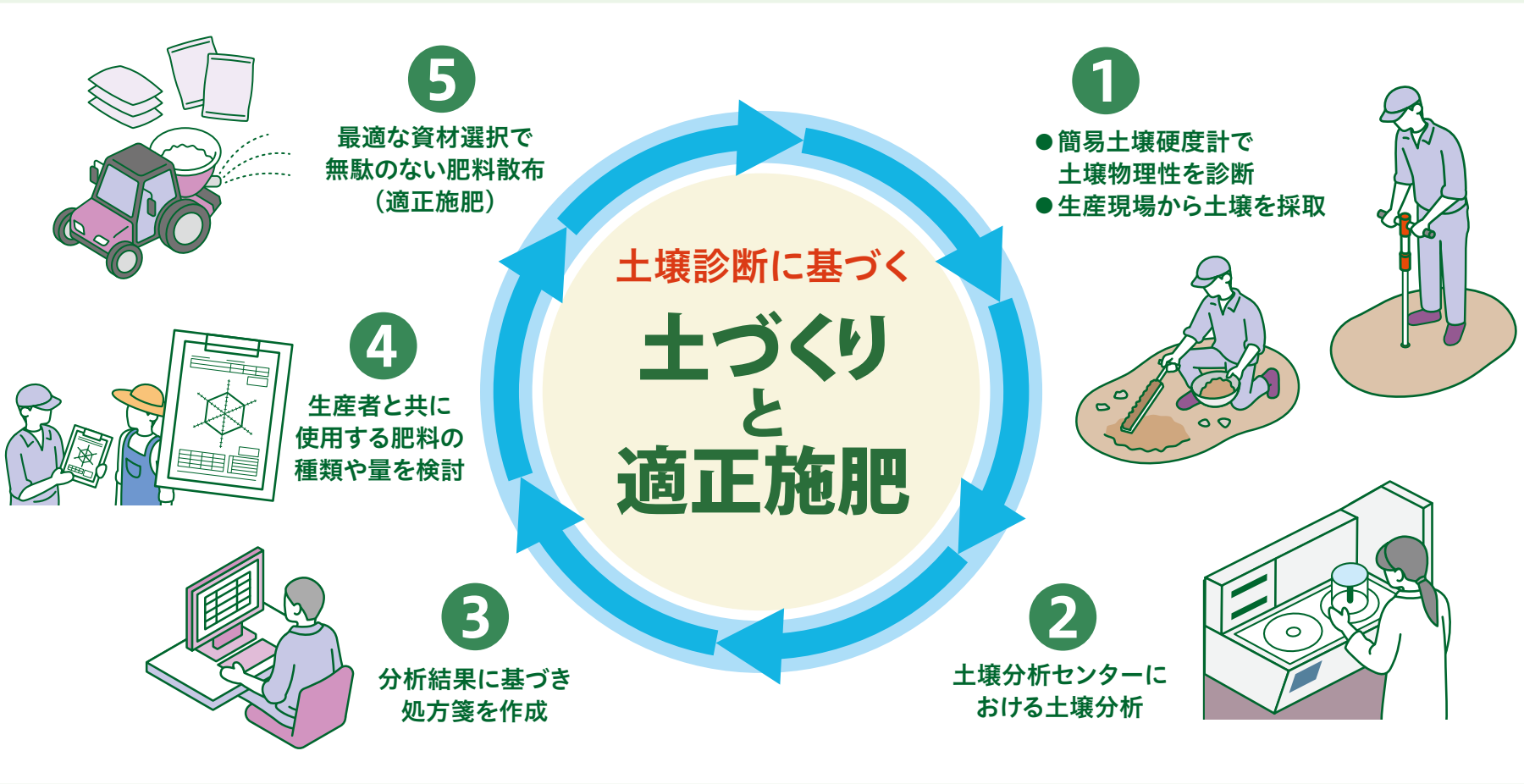
ペースト施肥
ペースト肥料をポンプで田植え機に補給することで、重量物を持たずに施肥できる



ドローン施肥
農業用ドローンを使って、肥料を散布する

なぜ、「土壌診断」をするの？
豊かな土づくりが、実りの多い作物を育てる

●作物を正常に生育させるためには、土壌中の養分状態を作物が求める量に調節するとともに、他の成分とのバランスも取る必要があります。
●適切な生育環境を作るためには、土壌中の不足している養分と過剰な養分を調べる「土壌診断」が有効です。
●作物の収穫量を安定させるために、全農は「土壌診断」に基づいた適正な施肥を推進しています。



肥料は、下水からも生まれる？
国内資源由来の肥料を使う取り組み

●肥料価格の高騰や環境への配慮から、全農では堆肥や鶏糞燃焼灰を活用しています。
●さらに下水に含まれるりんを回収し、肥料原料として活用することで、肥料の輸入依存度を下げる取り組みを進めています。

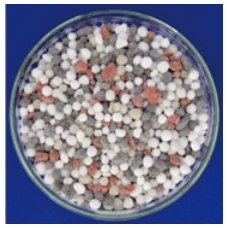
国内肥料資源を活用した肥料の一例

堆肥入り混合肥料



混合堆肥複合肥料

堆肥と化学肥料を
混合し一粒化した肥料



堆肥入り指定混合(配合)肥料(BB肥料)

地域の特性に合わせた肥料配合が可能、
ペレット堆肥なども配合できる

下水再生りんによる複合肥料



土づくり・環境への配慮

肥料に使われるプラスチックの流出防止を目指して 環境負荷を低減する持続可能な農業とは？

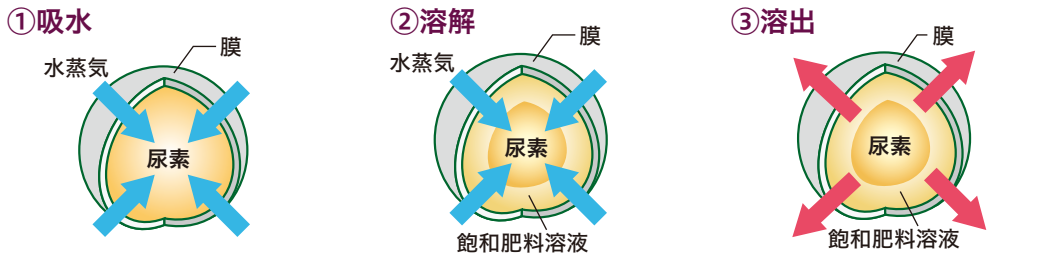
●近年「プラスチック資源循環」への関心が高まるなか、被覆肥料の被膜殻に使われるプラスチックが問題になっています。被覆肥料は、特に水稲栽培で重要な役割を果たしており、施肥作業の省力化や肥料利用効率の向上、環境負荷の低減などに貢献しています。

●全農は関係団体と連携し、被膜殻の流出防止対策やその取り組みについての周知活動を進めています。また、減プラスチック肥料や代替技術の普及、生分解性樹脂・ノンプラスチック被覆肥料の開発支援を通じて、脱プラスチック農業の実現を目指しています。

被覆肥料とは？

- ▶ 尿素を特殊な樹脂で覆った肥料
- ▶ 樹脂の膜を通り、尿素が緩やかに溶け出す
- ▶ 溶出速度は温度に関係する

溶出のメカニズム



土壌の水分が水蒸気の形で、被膜を通して浸透します

内部の肥料を溶解させ、飽和溶液を生成します

その結果、溶けた肥料成分が被膜を通じて徐々に被膜外に溶け出します

出典：ジェイカムアグリ株式会社HP掲載の画像を基に作成



被覆肥料の流出リスクを低減

水深を浅くして行う浅水代かき（土を砕いて平らに整える作業）により、水田からの強制落水（意図的な水の排出）を防止。水に浮上する被膜殻の流出を防ぎます。

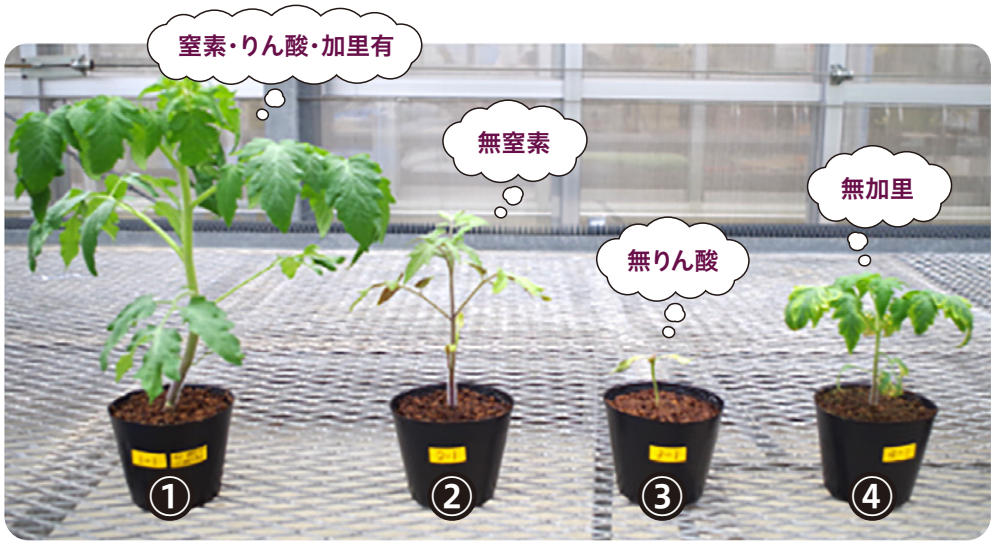


お役立ち情報

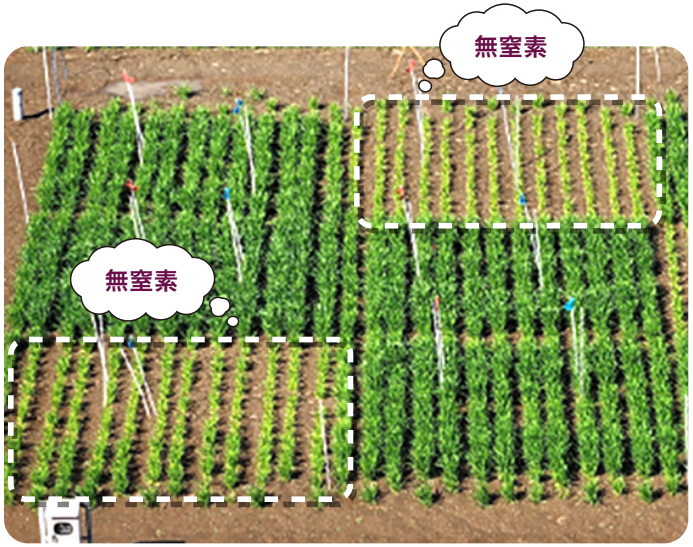
無肥料栽培はできるの？
安定生産や収穫量向上のために補いたい3要素

●無肥料栽培は可能ですか？というご質問をいただくことがあります。土壌に不足している栄養分を適切に補わないと、生育の衰えや作物の収穫量、品質の低下につながる恐れがあります。
●特に、肥料に含まれる３要素（窒素・りん酸・加里）は、土壌中の含有量が少なく作物の求める量が多い栄養分です。
●栽培する土壌に3要素（窒素・りん酸・加里）が含まれるか含まれないかで、生育や収穫量に大きな違いが生じるため、適切に補いましょう。

窒素・りん酸・加里が欠けた場合の生育の比較



左から①窒素・りん酸・加里有、②無窒素、③無りん酸、④無加里で育苗を行ったトマト苗の様子



無窒素にて栽培した小麦（白点線部）には、生育の衰えが見られる

お役立ち情報

肥料使いと土づくりのコツとは？
家庭菜園に役立てたいApron（エプロン）

食と農のWEBマガジンApronとは？

Apronでは、野菜の育て方や栽培のポイントなど、家庭菜園の初心者から経験者まで役立つ情報を掲載しています。
家庭菜園に興味のある方は、ぜひご覧ください。

▶詳しくはコチラ！　https://apron-web.jp/

Apronのコンテンツを紹介！



Apron公式サイト

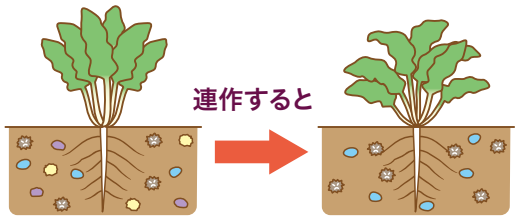
紙の情報誌もございます



家庭菜園Q&A

家庭菜園に関する疑問を、Q&A形式で分かりやすく解説しています。肥料の種類や使い方、土づくりの情報も掲載しています。

Q.連作障害を防ぐ方法を教えてください。



連作障害とは、同じ場所に同じ野菜を続けて栽培することで発生する障害のこと。防ぐには、計画的に作付けして特定の病害虫を増やさない、接ぎ木苗を使う、太陽熱消毒をする、緑肥作物を作付ける、堆肥を施用するなどの方法があります。

▶詳しくはコチラ！
https://apron-web.jp/garden/saienqa/25034/

Q.化成肥料の数字（8-8-8など）は何を表していますか？



化成肥料の袋に8-8-8などとハイフンで区切られて大きく表示してある数字は、その肥料に含まれる、窒素、リン酸、加里の％を表しています。

▶詳しくはコチラ！
https://apron-web.jp/garden/kihon-qa/9132/

［投稿］わが家の菜園

読者から寄せられた家庭菜園の写真やエピソードを紹介しており、家庭菜園の楽しみ方や工夫を知ることができます。

全農
ZEN-NOH
食と農を未来へつなぐ。

全国農業協同組合連合会
〒100-6832　東京都千代田区大手町1－3－1
https://www.zennoh.or.jp/